

## 1. 児童の豊かな創造性を発揮できる学習環境をめざす。

「学びの場」として高機能・多機能な学習環境を整備する。

未  
決  
定

- (1) 少人数学習、グループ学習や学級の枠にとらわれない学習集団の編成に柔軟に対応できる校舎とするため、オープンスペースと連動した普通教室や、大小の様々な学習空間を設ける。
- (2) 図書、IT、メディアなど、総合的に学ぶ場や、英語教育、ランチルーム、土曜スクールなど、多様なニーズに合わせた様々な教室・設備を整備する。
- (3) 普通教室の学習環境を高めるため、可動壁、扉、吸音材など、総合的に考慮する。

## 2. だれもが使いやすく、居心地のよい学校をめざす。

集団生活の場として、健康的で、環境に配慮した施設整備とする。

未  
決  
定

- (1) 楽しく過ごしたり、落ち着いたりできるよう、変化に富んだ様々な空間を用意する。
- (2) 屋上・壁面緑化や風通しのよい設計を行うとともに、先進的な環境共生の手法や断熱・蓄熱性能についても検討し、環境にやさしく、児童にとって過ごしやすい環境を保つことのできる学校とする。
- (3) 限られた校地の中で校庭、体育館、屋上等について可能な限り児童が運動できるスペースを確保する。
- (4) 心身障害児学級の設置や特別支援教育の実施を踏まえ、ユニバーサルデザインの校舎とし、だれもが使いやすい校舎づくりを行う。

## 3. 安全で地域に支えられる学校をめざす。

地域の活動や災害復旧の拠点として、地域の風が通り抜ける学校とする。

未  
決  
定

- (1) 施設の地域開放のため、学校専用ゾーンと地域開放可能なゾーンを分けて計画したり、学校を支援する人たちのスペースに配慮する。
- (2) 見通しのよい計画や防犯カメラなどにより死角の少ない学校とする。
- (3) 防災まちづくり計画に沿って、災害時の延焼遮断や地域の復旧の拠点とし、十分な機能と使い勝手を備えた校舎とする。

## 4. 地域のランドマークとして親しまれ、児童の思い出に残る学校をめざす。

統合までの記憶を残しつつ、将来へ向け児童や地域に親しまれる学校とする。

未  
決  
定

- (1) 杉並第五小学校、若杉小学校という二つの学校があったことの記念となるものを校内に設置する。
- (2) 地域住民に親しみが持て、児童にとって思い出に残るような外観等を整備する。